

施策No.	政策名	快適で潤いのある生活環境づくり	主管課	環境対策課	主管課長名	生活環境課 郡司 純夫
411	施策名	生活環境の保全	関係課			

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	・市内の生活環境(水質・大気・土壌) ・市民・事業所	①桜川市人口	見込値	人				45,122	44,571	44,020	43,190	42,571	41,952
実績値					46,575	45,673	45,105	44,449	43,826	43,190	42,444	42,000	
②市域面積		見込値	km ²					179.78	179.78	179.78	180.06	180.06	180.06
		実績値				179.78	179.78	179.78	179.78	179.78	180.06	180.06	180.06
的	施策の意図	成果指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	・生活環境(水質・大気・土壌)が保全される	①省エネなどの地球環境への負荷を軽減する行動を行った市民の割合	目標値	%				80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0
実績値					76.1	75.3	81.3	81.3	74.1	72.4	76.5	72.1	
②不法投棄件数		目標値	件					85	85	75	70	65	60
		実績値			67	71	59	67	64	45	71	59	
③桜川の水質(BOD)(市内の最下流地点「地藏橋」での数値)		目標値	mg/L					1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
		実績値			1.1	1.1	1.1	1.8	0.9	1.1	1.1	1.1	1.4
目標値													
実績値													
成果指標設定の考え方	○水質・大気が保全される(環境問題への理解を深め環境保全への行動を実践すること)に対する成果指標は、市民アンケートにおいて、①「省エネなどの地球環境への負荷を軽減する行動を行った市民の割合」や②「不法投棄件数」の減、③「桜川の水質」で把握する。												
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の桜川市人口は毎年10月1日現在の常住人口 ○対象指標は市民アンケートによる ○不法投棄件数及び桜川の水質については、環境対策課で把握。 ○BODとは、[biochemical oxygen demand/biological o. d.]水の汚染を表す指標の一。好気性微生物が一定時間中に水中の有機物(汚物)を酸化・分解する際に消費する溶存酸素の量。mg/Lで示す。生物化学的酸素要求量。3mg/L以下でアユが生息できる。												

2. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	1)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民や地域、行政と協働でやるべきこと)	2)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
	<ul style="list-style-type: none"> ○環境意識の向上に努める。 ○空き地等の適正な管理に努める。 ○野焼きや犬のフン害など、迷惑行為をしない。 ○ごみの不法投棄問題に関心をもち、情報提供に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校や家庭と連携し、環境教育の充実を図るとともに、広報紙等を通じて環境保全意識の普及・啓発に努める。 ○空き地等の適正な管理のための指導・助言を行う。 ○県が調査を行う工場排水、大気汚染等の状況を把握する。 ○環境基本計画に従い推進をしていく。 ○各地区の放射線量の測定を公開し、それらに対応する措置を講じながら生活の安全と安心を提供する。
状況変化	3)施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?	4)この施策に対して住民、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	<ul style="list-style-type: none"> ○原発事故による放射線の影響が引き続き懸念される。継続して監視する必要がある。 ○地球温暖化対策実行計画の進行管理と見直し ○環境基本計画の実現(進行管理) ○世界レベルでCO2削減の取組みをしていく必要がある。 ○ゴミ拾いをして、ゴミが減らない、今後もポイ捨てが続くと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○市民アンケートの満足度、優先度調査の結果、満足度、優先度とも中位である。 ○公共、公益の場所にゴミ、犬のフンが捨てられている。 ○野犬の徘徊による苦情が多い。

3. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
①環境問題の意識向上	市民 事業所	環境問題の理解が深まる	省エネなどの地球環境への負荷を軽減する行動を行った市民の割合	実績値 %	75.3	81.3	81.3	74.1	72.4	76.5	72.1
②環境保全活動の推進	市民 事業所	環境保全の活動を実践する	市内で実施している美化活動への参加者数	実績値 人	16,795	16,069	16,513	15,878	15,733	16,765	15,275
③公害防止活動の推進	市民 事業所	公害を防止する	苦情処理件数	実績値 件	76	71	46	28	27	23	23
④犬の登録及び適正管理の推進	市民	犬が適切に管理される	苦情処理件数	実績値 件	59	116	81	87	56	89	51

4. 施策のコストの実績(施策を構成する事務事業シートより積算)

項目	単位	26年度実績	27年度実績	28年度実績
①本施策を構成する事務事業の数	件	23	22	22
②施策事業費(一般財源以外)	千円	19,739	0	1,352
③施策事業費(一般財源)	千円	7,606	5,867	5,438
④施策事業費の計(②+③)	千円	27,345	5,867	6,790
⑤施策人件費(事務事業の人件費合計)	千円	14,213	11,567	14,372
⑥計(④+⑤)	千円	41,558	17,434	21,162

5. 施策に関連する主要事業等

関連する事務事業	区分	事務事業名	摘要
	主要事業		環境基本計画推進事業
事務事業		廃棄物不法投棄監視事業	H27貢献度上位
事務事業		環境美化運動事業	H27貢献度上位
事務事業		霞ヶ浦・北浦地域清掃大作戦事業	H27貢献度上位
事務事業		畜犬登録事業	H27貢献度上位
事務事業		動物のれき死体処理	H27貢献度上位

施策番号	411	施策名	生活環境の保全	主管課	環境対策課
------	-----	-----	---------	-----	-------

6. 施策の成果水準とその背景・要因

1)-①現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<p>・省エネなどの地球環境への負荷を軽減する行動を行った市民の割合は、22年度75.3%、23年度81.3%、24年度81.3%、25年度74.1%、26年度72.4%、27年度76.5%、28年度72.1%であった。23・24年度が少し高かったが、それを除けばほぼ横ばい状態である。</p> <p>・不法投棄事件数は、22年度71件、23年度59件、24年度67件、25年度64件、26年度45件、27年度71件、28年度59件で、前年度と比較すると、今年度は減少している。地理的な特徴として、山間部や閑散部など日常死角となる場所が多いこと、また、不法投棄される時間帯の多くが深夜から早朝であるために、巡回監視にも限界がある。</p> <p>・桜川の水質(BOD)については、22年度・23年度1.1mg/ℓで24年度は1.8mg/ℓ、25年度は0.9mg/ℓ、26年度・27年度は1.1mg/ℓ28年度は1.4mg/ℓであり、前年度と比較すると、若干高くなっている。</p>		

1)-②成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてが上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った
	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> すべての成果指標で目標値を下回った
背景・要因	<p>①省エネなど地球環境への負荷を軽減する行動を行った市民の割合は、28年度の目標値80.0%に対し72.1%と7.9ポイント下回った。</p> <p>②不法投棄事件数は28年度目標60件に対し59件で、平成27年度より12件少なくなり、目標値を上回った。</p> <p>③桜川の水質(BOD)は、28年度1.0mg/ℓに対し1.4mg/ℓであり、0.4mg/ℓ高くなっており、目標値を下回った。(※水質(BOD)の水質基準は2.0mg/ℓ以下である)</p>		

2)他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 他の自治体とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり低い水準である	
背景・要因	<p>・近隣の団体との比較する指標は少ないが、啓発活動により環境の負荷軽減については、市民アンケートにより高いものと思われる。</p> <p>・市民アンケートでは、家庭で地球温暖化防止に役立つ行動を実践している市民の割合は72.1%である。</p> <p>・光化学スモッグ発令件数は県内で8回あり、うち7回は予報・1回は注意報であった。筑西地域では1回あった。</p>		

3)住民の期待水準との比較(住民の期待よりも高い水準なのか、同程度なのか、低いのか)、その他の特徴は?

実績比較	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の期待とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり低い水準である	
背景・特徴	<p>・環境の負荷軽減について、市民アンケート結果全体の72.1%の市民が環境に配慮している。これは、普及啓発活動及び地球温暖化対策活動によるものと思われる。ただ実践していない人は24.7%であることを踏まえ、引き続き啓発活動を行っていく必要がある。</p> <p>・23年3月の総合計画策定時のアンケート調査では、満足度・優先度も平均より若干低く留意項目であるが、ほぼ中心点である。</p> <p>・放射能濃度については、市内の数値も低いいため以前と比較すると問い合わせ等も無くなった。しかし、放射能と言う見えない脅威から解放されたのではないことから、継続して空中線量の測定を行い、HPへ掲載を続けていく予定である。</p>		

7. 総合計画後期基本計画(H24~28)の振り返り

区分	これまでの取組成果
施策全体	環境保全の行動をしていない人を対象に地球温暖化対策、生活環境を良好に保つためや犬猫が適切に管理されるなど、重点的に取り組んだ。また、岩瀬福祉センター・真壁福祉センターに5Kwの蓄電池をそれぞれ設置して、災害時の対応や地球温暖化に対応した。
基本事業	①環境問題の意識向上 市民として環境負荷の少ない街づくりを進め、環境問題を意識し、取り組んだ。
	②環境保全活動の推進 環境に対する市民の意識が高く、市全体で取り組んだ清掃活動などを実施した。
	③公害防止活動の推進 不法投棄監視員や水質監視員及び地域住民と連携し、管理体制を固り、公害や不法投棄発生を抑制してきた。また、放射線量を継続的に測定し対応した。
	④犬の登録及び適正管理の推進 飼い犬の登録及び狂犬病予防注射の周知徹底、飼い犬の放し飼い、ふんのあと始末など、飼い主のマナー向上を周知に努めた。